

地域で、全国で、つながりをつくりだし 子ども食堂を普及させる



全国ツアーの開催による地域での活動者のつながり

全国規模のネットワーク化と、地域の関係機関を巻き込んだ戦略で、「子ども食堂」の抱える課題を解決するための土台をつくりあげました。

子ども・家庭支援部門

● 助成年度
2016～2018年度

● 助成額
1年目 870万円
2年目 950万円
3年目 900万円

● 活動目的

子ども食堂の取り組みを地域に定着し継続させることを目的に、理解者のすそ野を広げるための応援・助言機関の設置や理念の普及と運営スキル向上を図るテキストを作成。「広がれ、子ども食堂の輪！」全国ツアー開催支援を通じて、各地のネットワーク強化・取り組みの活発化を図る。



子ども食堂を応援する重層的な ネットワーク化を広げる

2016年から赤い羽根福祉基金の助成を受けて「広がれ、子ども食堂の輪！ 全国ツアー開催支援およびネットワーク推進事業」を実施した全国食支援活動協力会（以下、協力会）。協力会専務理事の平野覚治さんは、事業の目的をこう説明します。

「子ども食堂の活動を定着・継続させるため

には、子どもを支援する他団体や行政等も巻き込んだ重層的なネットワークをつくることが必要だと感じていました。さらに、本事業では各地の子ども食堂と地域の関係者をつなぐことで、支援の輪を広げるためのネットワークの推進をはかることを目的としました」

2016年9月に東京で行ったキックオフイベントを皮切りに、「広がれ、子ども食堂の輪全国ツアー」として、2019年3月までに47都道府県50カ所でシンポジウムを行いました。

そして、次に取り組んだのは、推進委員会の

設置です。

推進委員会は、子ども食堂の関係者だけでなく、幅広い子ども支援団体で構成し、子どもに関わる団体がゆるやかにつながり、情報交換ができる場として15回開催することができました。

実践に役立つ 活動ガイドブックを作成

事業の柱の1つに、「活動ガイドブック」の作成があります。

「2017年3月、第1弾の活動ガイドブックを作成しました。テーマは子ども食堂の多様な活動。引きこもり防止に取り組んでいる団体、学習支援も行っている団体等を紹介し、子ども食堂の魅力が活動の多様性にあることを発信できました」

第2弾の活動ガイドブックは2018年3月に発行。前年のアンケート調査で把握した、実践者が抱える悩みに応えた内容でした。平野さ

ネットワークの拡大をはかり “子どもの居場所”を応援したい

“赤い羽根”は地域の皆さんにとって非常に身近です。活動ガイドブックの裏に入っている赤い羽根のマークを見て、手にとっていただけの方も多くいることを実感しています。

こども食堂の取り組みは多様で、爆発的に広がったこともあり、衛生管理等の手法を含めて、統一された基準がありません。本事業で各地の先進的な取り組みを広報できたことは、とても大きな成果でした。

事業を継続するべく、2019年4月に「こども食堂サポートセンター」を新たに設置し、取り組みを開始します。サポートセンターの立ち上げと同時に、「広がれ、こども食堂の輪！推進会議」を結成し、こども食堂をめぐる幅広い関係者が集まって、全国ツアーの開催支援、子ども支援機関への情報提供、民間企業や生協と連携して子どもの居場所を応援する環境整備に取り組んでいます。

今後は、あらゆるところから活動団体に情報が届く仕組みをつくっていききたいです。地域のさまざまな団体の協力を得て、ネットワーク型で課題解決をはかれるような仕組みをつくろうと動いています。



全国食支援活動協会の専務理事 平野覚治さん

助成プログラム 評価会議委員コメント

一過性の全国キャンペーンではなく、その次の展開まで考えていたところに感心しました。このように短期間で各都道府県での取り組みをつなげ、ネットワーク化を図ることは、うまくいかないことも多いなか、ネットワーク化を成功させた手法は、他のテーマでもネットワークづくりへの示唆になります。ネットワーク化の手法についてノウハウをまとめてほしいところです。

こども食堂の実践者や関係する人たちを孤立させないという視点が重要であり、利用者に何かを与えることだけでなく、双方向に与えあっていくことが、活動の広がりにつながっていくことを期待しています。



活動ガイドブックの発行

んは、「アンケートでは食物アレルギーへの対応や衛生管理などの運営上の課題や、行政や学校との連携、貧困対策を活動に掲げるか否かなどで悩んでいる実態を把握しました」と話します。第2弾の内容としては、地域の関係団体と連携し幅広い取り組みを行っている事例を紹介しました。

2019年3月に発行した第3弾の活動ガイドブックは、巻頭を沖縄特集とし、全国に広がったこども食堂と子どもの居場所を応援する事例を紹介しました。

さらに、活動ガイドブックの「スピンオフ」
として、運営のノウハウをまとめた『こども食堂あんしん手帖』を2018年8月に発行。子どもが食べやすい食事づくりの工夫や、食の提

供に関する制度、食品衛生アレルギーの基礎知識などを示しました。

事業の成果を生かし 前進していきたい

事業を実施した3年間で、当初、目標に掲げた47都道府県50カ所での全国ツアーの開催を達成。総動員数は1万人を突破しました。活動ガイドブックは3冊で合計約10万部を発行し、こども食堂の普及に貢献しています。